



特集 NPO 法人認可をうけて



公開シンポジウム
開催します

わたしたちの一步。

安心して悩むことのできる社会へ

早いもので、僧侶と市民が立ち上げた「京都自死・自殺相談センター」は、1年を迎えようとしています。4月12日にはNPO法人の認可を受け、「NPO法人 京都自死・自殺相談センター」として衣替えをしました。これを記念して公開シンポジウムを開催します。

〈死にたい〉〈大切な人を自死で亡くした〉そんな自死にまつわる様々な苦悩を抱えている方に、わたしたちは一体何ができるでしょう。「いま、わたしたちにできること」を皆さんといっしょに考えたいと思います。

ご講演いただくのは、朝日新聞記者の磯村健太郎さん。著書『ルポ 仏教、貧困・自殺に挑む』の中で、当センターの活動を紹介していただきました。「安心して悩むことのできる社会」とは何か。さまざまな取材を通して得られた見識を、やわらかな眼差しで語っていただきます。パネルディスカッションでは、磯村さんに加えて、同志社大学非常勤講師の引土絵未さん、奈良女子大学名誉教授で当センター理事の清水新二が、京都新聞記者の澤田亮英さんのコーディネートののもと、「いま、わたしたちにできること」を熱く語り合います。ぜひ、ご参加ください。

「いま、わたしたちにできること—安心して悩むことのできる社会へ」

日時：2011年4月23日（土）開演 13時30分

場所：龍谷大学アバンティ響都ホール（JR・地下鉄・近鉄京都駅徒歩2分アバンティ9階）

講演：磯村 健太郎 [朝日新聞記者、アエラ元副編集長]

一緒に考える人：引土絵未 [同志社大学非常勤講師、精神保健福祉士]

清水新二 [奈良女子大学名誉教授]

澤田亮英 [京都新聞記者]

※詳細は別紙チラシをご覧ください

限界を自覚しつつ、 自分たちにできることはなにかを考える。



清水新二

しみず・しんじ / 1947年生まれ。専門は家族病理学、社会病理学、精神保健学。東京都精神医学総合研究所研究員、大阪市立大学講師、同助教授、国立精神神経センター・精神保健研究所成人精神保健部部長を経て、2002年4月より奈良女子大学教授。ハンガリー科学アカデミー社会学研究所客員研究員（日本学術振興会派遣）、米国 Beth Israel Medical Center 客員研究員（フルブライト財団派遣）、厚生省公衆衛生審議会・精神保健部会アルコール関連問題専門委員会委員、WHO国際アルコール関連問題会議の日本側専門委員なども務める。現在大阪府自殺対策連絡協議会座長。

いま日本ではしきりに社会的^{きずな}絆、ひととひとの^{つな}繋がりについてその大切さが言われています。自死の問題についても同様です。様々な事情と経緯から孤立感、無力感の中で死にたいほどに苦しい、生きにくいと苦悩する人が少なからずいます。また大切な人を失って悲嘆や不安にくれている人もたくさんいます。

苦悩や悲嘆や不安そのものが問題なのではありません。戦前の食糧^{ききん}飢饉や、敗戦による別離や生活の痛手を始め、各種の自然災害による生活の壊滅的打撃、経済的浮沈による^{ほんろう}翻弄など、それぞれの時代に応じてあげればきりのない人生の生きにくさがあります。現代社会にあっては人間関係や“じぶん”をめぐるストレスの過多という特徴をあげることができるとでしょう。むしろ問題は、こうした苦悩や悲嘆や不安に対して自分ひとりで向き合わざるを得ない、ひととひとの^{きずな}絆の希薄さなのではないでしょうか。生きることの苦悩が自死につながっていくかどうかの分岐点のひとつに、この^{きずな}絆の問題がありそうです。

さあ、だから支援の手をとというわけではありません。自死の問題にはもっともって想像力と感性を駆使して思いめぐらすことの多いものがあるはず。そんな思いを息長く持ち続け、ゆるりゆるりと私たち NPO 法人京都自死・自殺相談センターはスタートを切ります。

私たちにできることには^{おの}自ずと限界があります。その限界を自覚しつつ、自分たちにできることはなにかを考え、この度公正かつ透明性の高い運営を旨とした NPO 法人のスタイルで相談活動、啓発活動、グリーフサポートを中心にした活動に取り組みたいと思います。

いうまでもなくこの小さな種火は、関係各位をはじめ多くの方のご理解とご協力、相互の連携の下でしか芯のある火塊には育ちません。何卒、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

「NPO法人京都自死・自殺相談センター」

きもち、名称ともに改まり

今春より、京都自死・自殺相談センターは、特定非営利活動法人（NPO 法人）として新たに発足いたします。スタッフ一同、無事に法人として設立されたことにホッと胸をなで下ろすと同時に、社会の一員としての責任と義務を改めて感じ、身が引き締まる思いでございます。

NPO 法人として認められたことにより、社会的な信用を得ることができます。具体的には、適正な運営をする組織であり、社会的な公益性をもった活動であることが、政府から正式に認証されたということになります。また、他の団体とさまざまな取引をする場合には、社会的に認められた法人として権利と責任の主体になることができます。こうした信用を守り、育てていくことで、相談してこられる方、支援して下さる方、ボランティアとして活動していただく方に安心して関わっていただける相談センターになるように努めたいと思います。（代表 竹本了悟）

役員一覧・・・・・・・・・・

■理事長

清水 新二（奈良女子大学名誉教授）

■理事

生越 照幸（弁護士）

池田 行信（浄土真宗本願寺派宗会議員）

竹本 了悟（浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員）

野呂 靖（龍谷大学文学部講師）

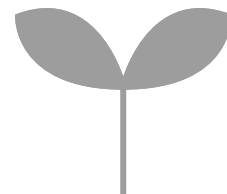
金子 宗孝（web デザイナー）

吉田 典生（会社員）

廣谷 ゆみ子（浄土真宗本願寺派僧侶）

■監事

武田 慶之（浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員）



コラム | ココロナル

東日本大震災への想い—みんなで少しでも—

この度の東日本大震災において、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。その日から1ヶ月余り、いろいろな情報に振り回され、原発事故も加わり、今まさに大変なさなかにおありかと思えます。幾度か周りから「頑張ってください」という言葉を聞かれたことでしょうか。しかし、津波によってたくさんの肉親との別れを経験された方に、私は「頑張る」とは言えないのです。少しの励ましや同情、なぐさめ等何にもならないことがわかるからです。こんな時こそ少しの知恵と努力を周りから注ぐことができればと考えます。毎日同じA. C. のCMを嫌になるほど聞きながら、こんなことで日本は立ち直れるのかと心寒く思います。しかし降り止まない雨はないともいいますし、朝の来ない夜はないことを信じて、この未曾有の災害に対してどこまで通じあえるのかわかりませんが、みんなで少しでも前に歩いて行きたいと願う今日です。

（ボランティア一期生 K）

活動報告

- 電話相談件数…43件 (3月)
- 電話相談・シンポジウム街頭告知活動
3月28日(月) 京都タワー前
- グリーフサポートミーティング
今後の方針についての意見交換会
3月15日(火) 参加者10名
- 啓発活動委員会
4月5日(火) 参加者6名

寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同)

(2011年3月17日～4月14日)

皆様のご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	西教寺	源照寺
株式会社エクザム	武田慶之	中平了悟
北氏緋紗	高山幸博	中平未紀
常念寺	明照寺	赤井智頭
日野凡記	前田富子	安部智海
讚楽寺	匿名	本多真
正念寺	善巧寺	内田唯心
善教寺(所浄伸)	唯念寺	金澤豊
西脇晃宏	中原寺	伊達直人
西願寺教会	眞正寺(山本安則)	金子宗孝
安照寺(衛藤徹三)	品立寺(山城智王)	音教寺
圓宗寺	宣勝寺(田近早弓)	瀬戸恭子
明楽寺(高木壽章)	大船寺	柳田澄子
安養寺(寺本 芳)	安楽寺	高田文英
東弘寺(豊田善樹)	竹本了悟	那須公昭
那須蠟燭店	街頭募金に依りてくださった方	

Sotto レビュー



『ファイブ・イージー・ピース』

[DVD] ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
監督 ボブ・ラフェルソン
出演 ジャック・ニコルソン ほか

愛することに反発を感じ、仕事、家族、女性、周りのもの全てから離れていく青年の苦悩を描いた本作。主人公ボビーは希望をみつけることができず、感傷的な気持ちで放浪に出る。40年前に制作された映画だが、ボビーの苦悩は「自分探し」をして「個人の無力」さを感じながら生きている現代の私たちと通じるものがあるのではないかと感じる。『ファイブ・イージー・ピース』とは、「5つの簡単な曲(five easy pieces)」という意味である。簡単に弾けるはずの曲が弾けなくなったように、普通の生活から離れてしまったボビー。ギャップを象徴するようなタイトルを皮肉に思う。(M)

…そして気づかされます。こちらが元気だから元気を分けてあげられるというのは、嘘なんだなあ、と。大事なものは、どのくらい自分がその人の痛み、苦しさ、さびしさ、悔しさ、怒りにひびき合えるか、共感、共有できるか、それにかかっているのだ、と。(本田哲郎『釜ヶ崎と福音』岩波書店)

今月のことば

Sotto コメント

NPO法人となり、皆さまへの定期的な報告がとても大切であることを改めて感じております。この会報『Sotto』が、私たちと皆さまをつなぐ大切なつながりの一つとなつて、お互いの信頼を厚くする機会となるよう、誠実に魅力的な紙面作りを心がけていきます。(T)

発行

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp